



北海道公立大学法人  
**札幌医科大学**  
Sapporo Medical University

**札幌医科大学学術機関リポジトリ *ikor***

SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

Title	本学看護学科 1・2 年次学生の道徳的推論
Author(s)	堀口, 雅美; 大日向, 輝美; 木口, 幸子; 田野, 英里香; 福良, 薫; 稲葉, 佳江
Citation	札幌医科大学保健医療学部紀要, 第 7 号: 97-104
Issue Date	2004 年
DOI	10.15114/bshs.7.97
Doc URL	<a href="http://ir.cc.sapmed.ac.jp/dspace/handle/123456789/4898">http://ir.cc.sapmed.ac.jp/dspace/handle/123456789/4898</a>
Type	Journal Article
Additional Information	
File Information	n13449192797.pdf

- ・コンテンツの著作権は、執筆者、出版社等が有します。
- ・利用については、著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲内で行ってください。
- ・著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲を越える利用を行う場合には、著作権者の許諾を得てください。

## 本学看護学科1・2年次学生の道徳的推論

堀口 雅美, 大日向輝美, 木口 幸子, 田野英里香, 福良 薫, 稲葉 佳江

初学時における看護学生の道徳性を知ることは教育方法を検討する上での資料となる。そこで看護学生52名を対象に1年次と2年次での道徳性の実態について調査を行った。回収数は1年次43部、2年次52部でいずれも有効回答率は100.0%で以下の結果が得られた。1) 社会的規範の遵守に関する道徳性を知るため自動販売機の使用法についてたずねたところ、「正規の方法で購入する」と回答したのは1年次19名(44.2%)、2年次23名(44.2%)であった。2) DIT (Defining Issues Test) 日本版のうち、3つの例話をもとに道徳的発達段階の分布を検討した結果、例話2では1年次30名(69.8%)、2年次40名(76.9%)が第4段階であった。例話1、3においても1年次と2年次は同様の分布であった。以上より初学時の学習者は、他者との相互行為の有無により道徳的判断が変化しうる可能性を有していること、さらにその道徳的発達段階は1、2年次ともに「法と秩序」志向の段階にあることが示唆された。

<キーワード> 看護学生、道徳性、道徳的発達段階

### Moral reasoning of first- and second- year nursing students

Masami HORIGUCHI, Terumi OHINATA, Sachiko KIGUCHI,  
Erika TANO, Kaoru FUKURA, Yoshie INABA

The purpose of this survey was to clarify the moral reasoning of first- and second- year nursing students. Data were collected via questionnaire responses gathered from 43 nursing students of the first year and 52 nursing students of the second year. Morals and the level of moral development were analyzed from the perspective of the inclination of nursing students to use a soft-drink vending machine and the responses to three stories in which moral dilemmas were presented. These three stories were based on the DIT (Defining Issues Test) which has been developed for the Japanese adolescent. The results of the survey can be summarized as follows. 1. Nineteen of the first- year and 23 of the second- year nursing students expressed that they would buy a soft drink the right way. 2. Based on the second story, 30 of the first- year and 40 of the second- year nursing students were classified into stage 4 of moral development. For the first and third stories, the results were similar for the first year and the second year nursing students. The survey suggested that moral judgments could be changed by a mutual act with another person in nursing students in the first year and second year. In addition, it was shown that they had reached the stage of compliance with law and order in their moral development.

Key words: Nursing students, Morals, Moral development

Bull.Sch.Hlth.Sci. Sapporo Med.Univ. 7 : 97 (2004)

### I 緒 言

人間は学校や家庭、職場などさまざまな集団の中で生活しており、共同生活が成立するためには守られるべき道徳、すなわち道徳がある。道徳は知識、情意、そして行為から成り立つものでその本質は道徳性である。何が道徳であるのか、なぜ道徳的であるのかということについての知識が前提とあって道徳的行為につながる<sup>1)</sup>。

我々は先に、看護学科の1年次の学生を対象に道徳的推論および道徳的発達段階に関する調査を実施し、道徳的推論は社会的環境による影響を受けること、および道徳的発達段階は社会秩序の維持に価値が置かれる段階にあることを報告した<sup>2)</sup>。教育活動の対象である看護学生の道徳性の実態を知ることは教育方法を検討する上で有益と考える。

そこで今回は道徳的推論と道徳的発達段階を合わせて道徳性とし、看護学生の1年次と2年次の時点における道徳

札幌医科大学保健医療学部看護学科

堀口雅美, 大日向輝美, 木口幸子, 田野英里香, 福良薫, 稲葉佳江

著者連絡先: 堀口雅美 〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目 札幌医科大学保健医療学部看護学科



性の実態について調査を行った。道徳的推論は社会的規範意識、人生観と仕事および社会的存在に関する価値意識から構成した。また道徳的発達段階はコールバーグの3水準6段階の道徳的発達段階<sup>3)</sup>と道徳判断の方法には山岸のDIT (Defining Issues Test: 道徳的論点検査) 日本版<sup>4)</sup>を用いた。

## Ⅱ 方 法

### 1. 調査対象および調査時期

本看護学科平成13年度入学生52名で1年次の調査は平成13年10月に、2年次は平成15年2月に実施した。いずれも調査当日に登校した学生に対し、提出は任意であり、成績には関与しないことを文書と口頭で伝え、調査票の回収は当日もしくは後日にした。

### 2. 調査方法

無記名自記式質問紙を用いた集合調査を行った。調査内容は基本的属性、社会的規範意識、人生観と仕事に関する価値意識、社会的存在としての価値意識、およびDIT日本版に基づく道徳的発達段階とした。なお、道徳的発達段階の定義、例話の詳細については先の報告<sup>2)</sup>を参照されたい。

結果は各質問項目を学年別に集計した。名義尺度の資料については1年次と2年次で $\chi^2$ 検定を行い、有意水準を1%とした。道徳的発達段階については山岸の例話1～3に関する質問が道徳的発達段階(第2～5段階)

のいずれかに相当する内容となっており、その度数分布を示した。具体的な質問内容は表2～6と図1～3に、道徳的発達段階の判定方法はコールバーグによる方法に基づき、その算出方法は表7の注に示した。

## Ⅲ 結 果

### 1. 調査対象の概要

調査対象である平成13年度入学生52名のうち、回収数は1年次43部、2年次52部でいずれも有効回答率は100.0%であった。調査対象の平均年齢は1年次19.2±1.9歳、2年次20.5±1.8歳であった。性別と就業経験は表1に示した。

### 2. 社会的規範意識：学年別の回答状況

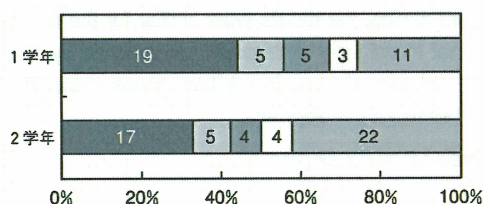
満員の地下鉄で高齢者が立っている場合にどうするかという問いに対して、どのような状況にあっても譲ると答えた人が1年次ではもっとも多く、2年次では「その他」がもっとも多い回答であった。「その他」の内容では「自分の体調が悪いとき以外は譲る」というのが主で

表1 調査対象の基本的属性

		1 学年	2 学年
性別	男性	2 (4.7)	3 (5.8)
	女性	41 (95.3)	49 (94.2)
就業経験	常勤経験あり	2 (4.7)	2 (3.8)
	アルバイト、パート経験あり	38 (88.4)	48 (92.3)
	経験なし	3 (7.0)	2 (3.8)

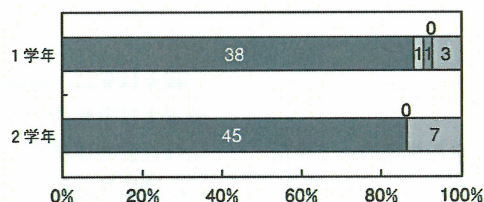
単位：人 (%)

質問1：満員の地下鉄（バス、JR）であなたが座っている目の前に、高齢者の方が来て立っていました。あなたならどうしますか。



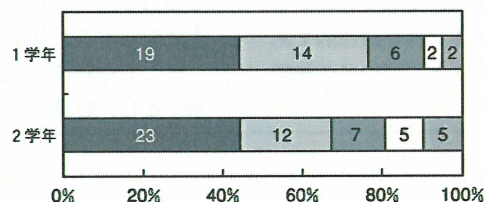
■ どのような状況にあっても譲る  
□ 友達と一緒にいる場合は座っている  
■ 多くの状況で座っている  
□ 友達や知り合いと一緒にいるときは譲る  
■ その他

質問2：あなたが横断歩道を渡ろうとしたとき、あなたの目の前で車椅子の障害者の方が自力で車道から歩道に車椅子を乗り上げられなくて困っている様子でした。あなたならどうしますか。



■ どのような状況にあっても手伝う  
□ そのまま通り過ぎる  
■ 人が見ているときは手伝う  
□ 友達と一緒にいる時は通り過ぎる  
■ その他

質問3：ある人が、自動販売機でコインを入れなくても飲料水を手に入れる方法を教えてくれました。あなたならどうしますか。



■ 正規の方法で購入する  
□ 友達と一緒にやらせてみる  
■ さっそくその方法でやる  
□ 周りに誰もいなかったらその方法でやってみる  
■ その他

図1 社会的規範意識



## 質 問

- 1) 親が年老いたら、世話をしたり面倒をみたりすることは人として大切である
- 2) 今の社会は、高齢者に対する配慮が足りない
- 3) 今の社会は、障害者に対する配慮が足りない
- 4) 人間の能力は個人で異なるのだから、能力によって地位や待遇に差があっても当然である
- 5) 重要なことは、皆で話し合っで決めるよりも、リーダーの決断の方が間違いが少ない
- 6) 自分と考え方の違う人にも、その人にはその人の考える理由や動機がある
- 7) 自分がどうしてもやりたいことがあるのに、無理にがまんしてやらないのは間違いである
- 8) 自分の目標に向かってやり遂げるためには、多少悪いことをするのもやむを得ない
- 9) 人間としてやってはいけないことは、どんな理由があろうともやるべきでない

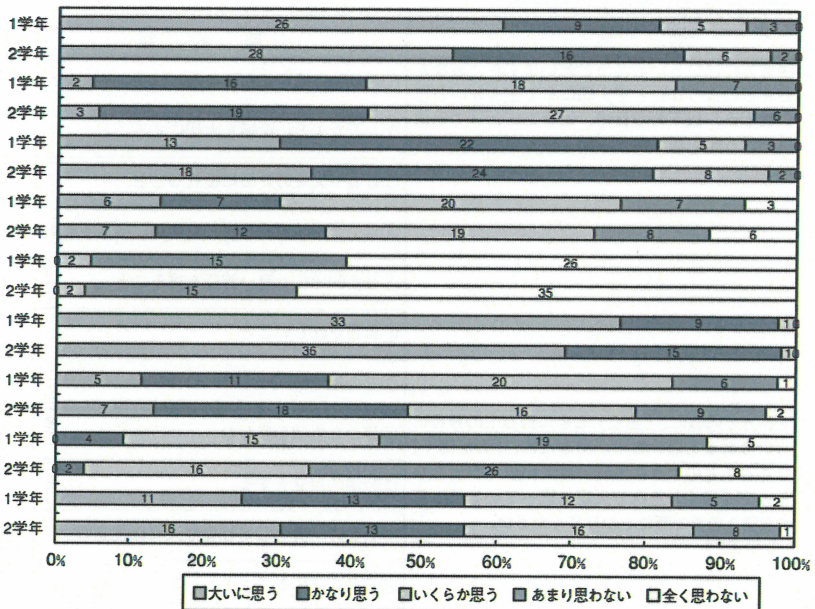


図2 社会的存在としての価値意識 (1)

## 質 問

- 10) 困っている人を助けることは人道的なことである
- 11) 自分の生活を犠牲にしてまで、社会奉仕活動をする必要はない
- 12) ゴミの選別処理や地域の美化を守ることは、その地域に住むものとして当然である
- 13) 地域に住む人々が気持ちよく暮らすためには、お互いがまんししなければならない
- 14) 多少自分の考えや生き方と違っても、周りとの和が大切である
- 15) 周りの人と軋轢を生じる生き方は、その人が損をするだけである
- 16) 自分や人々の自由は、法や道徳などの社会的規範によって守られている
- 17) 自分や人々の権利は、人としての義務を果たすことによって守られている

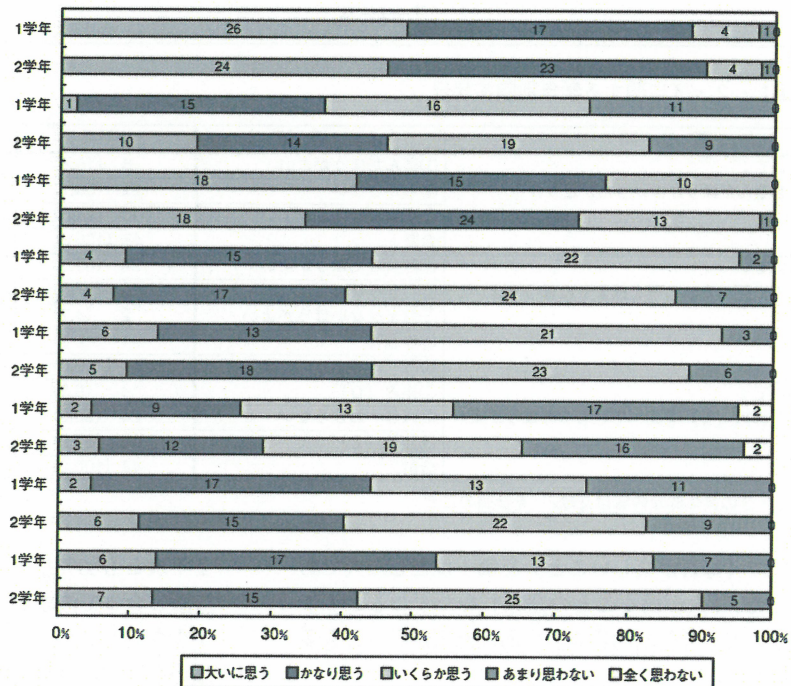


図3 社会的存在としての価値意識 (2)

あった。車椅子を使用している障害者の方が困っている場面では「どのような状況にあっても手伝う」と回答した人が1年次、2年次ともっとも多く、その理由として「車椅子の大変さを知っているから」「危険だから」という内容が主であった。自動販売機に関する質問では「正規の方法で購入する」と回答した人が1年次、2年次とも約40%であった。ただし、「友達と一緒にならやっ

てみる」「さっそくその方法でやる」と回答した人を合わせると、1年次、2年次とも約40%であった(図1)。

## 3. 人生観と仕事に関する価値意識：学年別の回答状況

「ふだんどのようなことを大切に生きていきたいか」という質問に対し、「身近な人との愛情を大切にすること」を第1位とした人が1、2年次ともっとも多



表2 人生観と仕事に関する価値意識

単位：人

質 問	選 択 肢	学 年	第1位	第2位	第3位
1. 人の生き方にはいろいろあると思いますが、あなたはふだんどのようなことを大切に生きていますか。以下の項目で、あなたにとって価値が高いと思う順に第1位から第3位まで順位をつけてください。	①経済的に豊かになること	1	1	1	16
		2	1	5	15
	②身近な人との愛情を大切にすること	1	22	16	1
		2	25	18	4
	③社会や人々のために役立つこと	1	1	8	8
		2	3	2	10
	④自分の趣味や関心ごとを中心に暮らすこと	1	4	7	10
		2	1	8	11
	⑤社会的地位や高い評価を得ること	1	0	2	4
		2	0	2	3
	⑥毎日が楽しいこと	1	15	8	1
		2	20	15	7
	⑦その他	1	0	1	3
		2	1	1	1
2. 人の生き方と同様に、「働く」ことに対しての考えにもいろいろあると思います。あなたは、「人が働く」ということをどのように意味づけていますか。あなたにとって「働く」意味で大切に思っている順に第1位から第3位まで順位をつけてください。	①豊かな生活を楽しむ	1	6	6	7
		2	7	11	8
	②経済的自立をする	1	14	13	7
		2	22	13	5
	③社会の一員として社会や人々に役立つ	1	10	3	8
		2	5	5	11
	④自分の才能を生かす	1	7	9	9
		2	6	6	5
	⑤社会的地位や高い社会的評価を得る	1	0	1	5
		2	0	3	3
	⑥仕事を通して他の人々と社会的関わりをもつ	1	4	10	6
		2	6	11	16
	⑦その他	1	1	0	0
		2	4	1	2

表3 例話1・2・3に関する学年別回答状況

単位：人 (%)

質 問	選 択 肢	1 学年	2 学年	$\chi^2$ 検定
例話1について： Aさんは薬を盗んだほうがよかったかどうか	①盗んだほうがよい	8 (18.6)	13 (25.0)	n.s.
	②わからない	25 (58.1)	22 (42.3)	
	③盗まないほうがよい	10 (23.3)	17 (32.7)	
	合計	43 (100.0)	52 (100.0)	
例話2について： 医師は奥さんに死ぬための薬を飲ませたほうがよいかどうか	①飲ませたほうがよい	24 (55.8)	15 (28.8)	有意差あり ( $\chi^2=10.25$ ) P<0.01
	②わからない	16 (37.2)	25 (48.1)	
	③飲ませないほうがよい	2 (4.7)	12 (23.1)	
	④無回答	1 (2.3)	0 (0.0)	
	合計	43 (100.0)	52 (100.0)	
例話3について： 盗み(D)と詐欺(E)を比べてどちらのほうがより非難されるべきか	①盗み(D)	4 (9.3)	5 (9.6)	n.s.
	②同じ・わからない	24 (55.8)	25 (48.1)	
	③詐欺(E)	15 (34.9)	22 (42.3)	
	合計	43 (100.0)	52 (100.0)	

※例話1・2・3の具体的な内容は文献2)を参照のこと

く、次いで「毎日が楽しいこと」を第1位とした人であった。また、「人が働くことの意味」をたずねると1年次、2年次とも「経済的自立」をあげた人がもっとも多かった(表2)。

#### 4. 社会的存在としての価値意識：学年別の回答状況

社会的存在としての価値意識として17項目についてたずねた。「親が年老いたら世話をしたり面倒をみたりすることは人として大切である」「今の社会は障害者に対する配慮が少ない」「自分と考え方の違う人にもその人の考える理由や動機がある」「困っている人を助けるのは人道的なことである」ということに対し、「大いに思う」「かなり思う」という回答を合わせると、1年次、

2年次とも80%以上であった。一方、「重要なことは皆で話し合って決めるよりリーダーの決断のほうが間違いが少ない」ということについて「あまり思わない」「全く思わない」という回答を合わせると1年次、2年次とも90%以上であった。「多少自分の考えや生き方と違っても周りとの和が大切である」という質問では、「かなり思う」「いくらか思う」という回答を合わせると1年次、2年次とも約78%であった(図2、図3)。

#### 5. DIT日本版に基づく道徳的発達段階：学年別の特徴

ここではまず例話1、2、3に対する回答状況について述べた後、例話別にみた道徳的発達段階の分布について述べる。



表4 「例話1」に関する学年別回答状況

単位:人(%)

項 目	道徳的発達段階*	学年	非常に重要	かなり重要	いくらか重要	あまり重要でない	全く重要でない	無回答	合 計
1) 我々の社会の法律が、そのことを是認するかどうか	4	1	9 (20.9)	11 (25.6)	11 (25.6)	12 (27.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	43 (100.0)
		2	10 (19.2)	12 (23.1)	19 (36.5)	10 (19.2)	1 (1.9)	0 (0.0)	52 (100.0)
2) 愛する妻のことを思ったら盗むのが自然かどうか	3	1	12 (27.9)	17 (39.5)	10 (23.3)	4 (9.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	43 (100.0)
		2	15 (28.8)	18 (34.6)	11 (21.2)	5 (9.6)	3 (5.8)	0 (0.0)	52 (100.0)
3) Aさんは刑務所に行くような危険を冒してまで、奥さんを助ける必要があるかどうか	2	1	13 (30.2)	12 (27.9)	6 (14.0)	11 (25.6)	1 (2.3)	0 (0.0)	43 (100.0)
		2	7 (13.5)	13 (25.0)	12 (23.1)	11 (21.2)	9 (17.3)	0 (0.0)	52 (100.0)
4) Aさんが盗むのは自分のためなのか、それとも純粋に奥さんを助けるためなのか	3	1	8 (18.6)	6 (14.0)	13 (30.2)	13 (30.2)	3 (7.0)	0 (0.0)	43 (100.0)
		2	9 (17.3)	10 (19.2)	7 (13.5)	17 (32.7)	9 (17.3)	0 (0.0)	52 (100.0)
5) 薬を発見した薬屋の権利は尊重されているかどうか	4	1	3 (7.0)	9 (20.9)	16 (37.2)	14 (32.6)	1 (2.3)	0 (0.0)	43 (100.0)
		2	5 (9.6)	5 (9.6)	20 (38.5)	16 (30.8)	6 (11.5)	0 (0.0)	52 (100.0)
6) Aさんは夫として奥さんの命を救う義務があるかどうか	4	1	4 (9.3)	5 (11.6)	18 (41.9)	15 (34.9)	1 (2.3)	0 (0.0)	43 (100.0)
		2	5 (9.6)	7 (13.5)	14 (26.9)	18 (34.6)	8 (15.4)	0 (0.0)	52 (100.0)
7) 我々が、他の人に対しどうふるまうかを決めるとき根本となる価値は何だろうか	5	1	16 (37.2)	7 (16.3)	11 (25.6)	8 (18.6)	1 (2.3)	0 (0.0)	43 (100.0)
		2	13 (25.0)	17 (32.7)	13 (25.0)	3 (5.8)	5 (9.6)	1 (1.9)	52 (100.0)
8) 金持ちを守るだけの無意味な法の庇護により、薬屋は許されてしまっているかどうか	4	1	8 (18.6)	10 (23.3)	14 (32.6)	5 (11.6)	6 (14.0)	0 (0.0)	43 (100.0)
	2	2	10 (19.2)	17 (32.7)	8 (15.4)	13 (25.0)	13 (25.0)	0 (0.0)	52 (100.0)
9) この場合、法律が社会の構成員の最も基本的な欲求の実現を阻んでいないかどうか	5	1	5 (11.6)	15 (34.9)	15 (34.9)	6 (14.0)	2 (4.7)	0 (0.0)	43 (100.0)
		2	15 (28.8)	11 (21.2)	14 (26.9)	9 (17.3)	3 (5.8)	0 (0.0)	52 (100.0)
10) このように欲が深く、残酷な薬屋は盗まれても当然かどうか	3	1	2 (4.7)	4 (9.3)	12 (27.9)	18 (41.9)	7 (16.3)	0 (0.0)	43 (100.0)
		2	1 (1.9)	4 (7.7)	12 (23.1)	21 (40.4)	14 (26.9)	0 (0.0)	52 (100.0)
11) このような非常事態でも、盗むことが、薬を必要としている社会の他の人々の権利を侵害することにならないかどうか	5	1	6 (14.0)	12 (27.9)	14 (32.6)	9 (20.9)	2 (4.7)	0 (0.0)	43 (100.0)
		2	9 (17.3)	15 (28.8)	20 (38.5)	5 (9.6)	3 (5.8)	0 (0.0)	52 (100.0)

※道徳的発達段階については文献2)を参照。表4では道徳的発達段階の第5段階と第6段階を合わせて第5段階としている。

表5 「例話2」に関する学年別回答状況

単位:人(%)

項 目	道徳的発達段階*	学年	非常に重要	かなり重要	いくらか重要	あまり重要でない	全く重要でない	無回答	合 計
1) 奥さんの家族は安楽死させることに賛成かどうか	3	1	27 (62.8)	10 (23.3)	4 (9.3)	1 (2.3)	1 (2.3)	0 (0.0)	43 (100.0)
		2	20 (38.5)	18 (34.6)	11 (21.2)	1 (1.9)	2 (3.8)	0 (0.0)	52 (100.0)
2) 医者へのなすべき義務は何だろうか	4	1	12 (27.9)	18 (41.9)	13 (30.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	43 (100.0)
		2	14 (26.9)	27 (51.9)	8 (15.4)	2 (3.8)	0 (0.0)	1 (1.9)	52 (100.0)
3) 我々の生活を統制し、自由な死を禁ずるような社会が必要なのかどうか	4	1	8 (18.6)	16 (37.2)	11 (25.6)	8 (18.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	43 (100.0)
	2	2	8 (15.4)	15 (28.8)	18 (34.6)	10 (19.2)	1 (1.9)	0 (0.0)	52 (100.0)
4) 医者はそれを事故のように見せることができるかどうか	2	1	1 (2.3)	1 (2.3)	2 (4.7)	12 (27.9)	27 (62.8)	0 (0.0)	43 (100.0)
		2	0 (0.0)	1 (1.9)	4 (7.7)	10 (19.2)	36 (69.2)	1 (1.9)	52 (100.0)
5) 社会は、生きることを望まない者に、生きることを強制する権利をもつかどうか	5	1	9 (20.9)	12 (27.9)	14 (32.6)	7 (16.3)	1 (2.3)	0 (0.0)	43 (100.0)
		2	17 (32.7)	17 (32.7)	12 (23.1)	3 (5.8)	2 (3.8)	1 (1.9)	52 (100.0)
6) 医者は奥さんの苦しみと同様に飲ませるか、それとも死なせてはかわいそうだから、なんとか励ましてあげた方がいいのか	3	1	4 (9.3)	11 (25.6)	16 (37.2)	9 (20.9)	3 (7.0)	0 (0.0)	43 (100.0)
		2	4 (7.7)	11 (21.2)	18 (34.6)	9 (17.3)	9 (17.3)	1 (1.9)	52 (100.0)
7) 他者の命を絶つことを手伝うことが、本当にその人の人格を尊重する行為かどうか	5	1	16 (37.2)	16 (37.2)	7 (16.3)	3 (7.0)	1 (2.3)	0 (0.0)	43 (100.0)
		2	20 (38.5)	22 (42.3)	6 (11.5)	3 (5.8)	1 (1.9)	0 (0.0)	52 (100.0)
8) いっ命をおえるべきかは、神のみが決めることかどうか	4	1	1 (2.3)	3 (7.0)	8 (18.6)	16 (37.2)	15 (34.9)	0 (0.0)	43 (100.0)
		2	0 (0.0)	2 (3.8)	7 (13.5)	16 (30.8)	25 (48.9)	2 (3.8)	52 (100.0)
9) どちらの方が、ひどいことをしたと、世間の人々から思われるか	3	1	0 (0.0)	3 (7.0)	7 (16.3)	21 (48.8)	12 (27.9)	0 (0.0)	43 (100.0)
		2	0 (0.0)	1 (1.9)	3 (5.8)	18 (34.6)	29 (53.8)	1 (1.9)	52 (100.0)
10) 医者は、自分自身の行動の基準として、どのような価値に一番重きを置いているのか	5	1	12 (27.9)	10 (23.3)	16 (37.2)	3 (7.0)	2 (4.7)	0 (0.0)	43 (100.0)
		2	10 (19.2)	18 (34.6)	13 (25.0)	10 (19.2)	0 (0.0)	1 (1.9)	52 (100.0)
11) 死にたい者に、責任や義務も顧みず死ぬことを許してしまえば、社会はうまく機能するかどうか	4	1	4 (9.3)	8 (18.6)	17 (39.5)	11 (25.6)	3 (7.0)	0 (0.0)	43 (100.0)
		2	3 (5.8)	3 (5.8)	20 (38.5)	20 (38.5)	5 (9.6)	1 (1.9)	52 (100.0)
12) 社会が自殺や安楽死を許すことが、個人の生命の保証を脅かさないかどうか	5	1	10 (23.3)	15 (34.9)	11 (25.6)	4 (9.3)	3 (7.0)	0 (0.0)	43 (100.0)
		2	11 (21.2)	15 (28.8)	17 (32.7)	6 (11.5)	2 (3.8)	1 (1.9)	52 (100.0)

※道徳的発達段階については文献2)を参照。表5では道徳的発達段階の第5段階と第6段階を合わせて第5段階としている。

## 1) 「例話1」に関する学年別の回答状況

例話1は「ハインツのジレンマ」として知られており、妻の命を救うために夫は薬を盗むかどうかという葛藤について取り上げている。夫(Aさん)は薬を盗んだほうがよいかどうかという質問に対し、1年次、2年次とも「わからない」とした人がもっとも多かった(表3)。さらに11項目についてその重要度をたず

ねたところ、1年次では「我々が他の人に対しどうふるまうかを決めるとき根本となる価値はなんだろうか」(第5段階)について「非常に重要」と回答した人がもっとも多かった。2年次では「愛する妻のことを思ったら盗むのが自然かどうか」(第3段階)、「この場合、法律が社会の構成員のもっとも基本的な欲求の実現を阻んでいないかどうか」(第5段階)につい



表6 「例話3」に関する学年別回答状況

単位:人(%)

項 目	道徳的発達段階*	学年	非常に重要	かなり重要	いくらか重要	あまり重要でない	全く重要でない	無回答	合 計
1) 親切な老人をだますというのは盗むよりもっとひどいことなのかどうか	3	1	7 (16.3)	14 (32.6)	15 (34.9)	7 (16.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	43 (100.0)
		2	8 (15.4)	19 (36.5)	15 (28.8)	6 (11.5)	4 (7.7)	0 (0.0)	52 (100.0)
2) 盗みとだましとるのと、どちらの方が、より法律に反する反社会的行為か	4	1	2 (4.7)	7 (16.3)	18 (41.9)	13 (30.2)	3 (7.0)	0 (0.0)	43 (100.0)
		2	2 (3.8)	10 (19.2)	15 (28.8)	19 (36.5)	5 (9.6)	1 (1.9)	52 (100.0)
3) 倉庫に押し入ってとるのと、だましとるのと、どちらの方が利口な方法か	2	1	1 (2.3)	3 (7.0)	7 (16.3)	17 (39.5)	15 (34.9)	0 (0.0)	43 (100.0)
		2	1 (1.9)	0 (0.0)	2 (3.8)	20 (38.5)	29 (55.8)	0 (0.0)	52 (100.0)
4) 露骨に悪いことをやるのと、表面的には穏やかで下心があるのと、どちらの方が卑しいことだろうか	3	1	5 (11.6)	10 (23.3)	22 (51.2)	5 (11.6)	1 (2.3)	0 (0.0)	43 (100.0)
		2	5 (9.6)	13 (25.0)	12 (23.1)	15 (28.8)	7 (13.5)	0 (0.0)	52 (100.0)
5) 資本主義社会で荒稼ぎをしている会社の倉庫から盗むことは、動機によっては悪くないのかどうか	4	1	0 (0.0)	1 (2.3)	9 (20.9)	23 (53.5)	10 (23.3)	0 (0.0)	43 (100.0)
	2	2	1 (1.9)	1 (1.9)	11 (21.2)	23 (44.2)	16 (30.8)	0 (0.0)	52 (100.0)
6) どちらの方が、人間関係の基礎にある価値をふみにじっているか	5	1	14 (32.6)	15 (34.9)	8 (18.6)	5 (11.6)	1 (2.3)	0 (0.0)	43 (100.0)
		2	14 (26.9)	24 (46.2)	8 (15.4)	3 (5.8)	3 (5.8)	0 (0.0)	52 (100.0)
7) Dの場合は直接的に困る人はおらず、Eに比べると大きな害はないのかどうか	4	1	1 (2.3)	1 (2.3)	15 (34.9)	19 (44.2)	7 (16.3)	0 (0.0)	43 (100.0)
		2	3 (5.8)	7 (13.5)	12 (23.1)	17 (32.7)	13 (25.0)	0 (0.0)	52 (100.0)
8) Eは後悔して後で返すことがあるかどうか	3	1	7 (16.3)	11 (25.6)	15 (34.9)	8 (18.6)	2 (4.7)	0 (0.0)	43 (100.0)
		2	9 (17.3)	8 (15.4)	17 (32.7)	10 (19.2)	7 (13.5)	1 (1.9)	52 (100.0)
9) どのような行為が最も深く他者をふみにじり、そのことにより自己をおとしめるだろうか	5	1	17 (39.5)	17 (39.5)	4 (9.3)	5 (11.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	43 (100.0)
		2	13 (25.0)	20 (38.5)	13 (25.0)	3 (5.8)	2 (3.8)	1 (1.9)	52 (100.0)
10) 個人的におさまるかもしれないEと、社会的事件となるDと、どちらの方が社会的影響が大きいだろうか	4	1	2 (4.7)	9 (20.9)	10 (23.3)	19 (44.2)	3 (7.0)	0 (0.0)	43 (100.0)
		2	3 (5.8)	2 (3.8)	15 (28.8)	19 (36.5)	13 (25.0)	0 (0.0)	52 (100.0)
11) どちらの方が、自らの行為が引き起こす結果を深く考え、引き受ける意志を強くもっているだろうか	5	1	14 (32.6)	15 (34.9)	11 (25.6)	2 (4.7)	1 (2.3)	0 (0.0)	43 (100.0)
		2	11 (21.2)	16 (30.8)	11 (21.2)	10 (19.2)	3 (5.8)	1 (1.9)	52 (100.0)

※道徳的発達段階については文献2)を参照。表6では道徳的発達段階の第5段階と第6段階を合わせて第5段階としている。

表7 例話別にみた道徳的発達段階の学年別分布および平均値

単位:人(%)

道徳的発達段階	学年	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	第5段階	第6段階	無 効	合 計	平均値
例話1	1	0 (0.0)	2 (4.7)	18 (41.9)	22 (51.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.3)	43 (100.0)	3.9
	2	0 (0.0)	3 (5.8)	20 (38.4)	25 (48.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (7.7)	52 (100.0)	4.0
例話2	1	0 (0.0)	0 (0.0)	10 (23.3)	30 (69.8)	1 (2.3)	0 (0.0)	2 (4.6)	43 (100.0)	4.2
	2	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (15.4)	40 (76.9)	1 (1.9)	0 (0.0)	3 (5.8)	52 (100.0)	4.3
例話3	1	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (18.6)	31 (72.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (9.3)	43 (100.0)	4.3
	2	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (13.5)	40 (76.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (9.6)	52 (100.0)	4.4

注1) 道徳的発達段階の判定方法; 例話ごとに一番重要から四番目に重要と選択された項目の段階に、それぞれ4、3、2、1の得点を与え、例話ごとに段階の値(例えば、段階2なら2、ただし段階4 1/2は4.3)と得点を掛けたものを加え、平均化して段階に換算する。

例: 例話1 一番重要(項目1) 二番(項目2) 三番(項目3) 四番(項目4)

↓                      ↓                      ↓                      ↓  
 段階4                  段階3                  段階2                  段階3

(4点×4+3点×3+2点×2+1点×3)÷10=3.2

注2) 平均値は無効を除いて算出した。

て「非常に重要」と回答した人がいずれも同数であった(表4)。

## 2) 「例話2」に関する学年別の回答状況

例話2では例話1に続いて、安楽死のジレンマについて取り上げている。医師は奥さんの頼みを聞いて奥さんに死ぬための薬を飲ませたほうがよいかどうかという質問に対し、1年次では「飲ませたほうがよい」、2年次では「わからない」がもっとも多く、有意性が認められた( $\chi^2=10.25$ ,  $df=3$ ,  $p<0.01$ )。さらに12項目に関して重要度では、1年次「奥さんの家族は安楽死をさせることに賛成かどうか」(第3段階)を「非常に重要」と回答した人がもっとも多かった。2年次ではそれを「非常に重要」と回答した人は減少し、「他者の命を絶つことを手伝うことが本当にその人の人格を尊重する行為かどうか」(第5段階)を「非常に重要」と回答した人と同数であった(表5)。

## 3) 「例話3」に関する学年別の回答状況

例話3では詐欺と盗みを比較してどちらがより悪いのかというジレンマについて取り上げた。盗みと詐欺とではどちらがより非難されるべきかという質問に対し、1年次、2年次とも「同じ・わからない」と回答した人がもっとも多かった(表3)。さらに11項目の重要度をたずねると、1年次では「どのような行為がもっとも深く他者をふみにじり、そのことにより自己をおとしめるだろうか」(第5段階)を「非常に重要」と回答した人がもっとも多かった。2年次では「どちらのほう人間関係の基礎にある価値をふみにじっているか」(第5段階)を「非常に重要」と回答した人がもっとも多かった(表6)。

## 4) 例話別にみた道徳的発達段階の分布

例話ごとに各個人の道徳的発達段階を判定した結果



を表7に度数分布として示した。例話1・2・3いずれも1年次、2年次ともに第4段階に分布が集中していた。例話2において第5段階を示したものが1年次、2年次に各1名いた。道徳的発達段階の平均値は1年次39~43、2年次40~44であった。

#### Ⅳ 考 察

ここでは道徳性を道徳的な価値意識と道徳的発達段階の2つの観点からとらえ、前者は社会的規範意識、人生観と仕事に関する価値意識、社会的存在としての価値意識で構成した。道徳的な価値意識は、社会的存在としての人間が他者との相互行為の過程で個人間の利害や権利の対立・葛藤が生じたときにこれを解決する上で重要な役割を果たす<sup>3)</sup>。

まず社会的規範意識では、高齢者、車椅子を使用している人、自動販売機という3種類の対象について質問をした。高齢者の場合、一見しただけでは援助の必要性の判断は困難であるが、車椅子を使用している人では明白であり、また自動販売機の場合は他者との相互行為がない場合という設定とした。1・2年次ともに高齢者に対しては基本的には席を譲るという意識があった。ただし、「自分の体調が悪いとき以外は譲る」という「その他」の回答が多かったことから、その場面での相手の状況だけでなく自分の状況にも左右される要素が含まれていることが推察される。一方、車椅子を使用している人に対しては1・2年次とも「どのような状況にあっても手伝う」という回答がもっとも多かったことから、自分のことよりも援助の必要性が明らかな状況に直結した行動をとることが考えられる。

対象が自動販売機の場合は、不正な方法が道徳的でないという知識のあることを前提に、社会的規範を遵守するか否かという葛藤を中心とした設定である。1・2年次ともに「正規の方法で購入する」という人と「不正な方法をやってみる」という人がほぼ同じ割合であった。他者との相互行為のない状況では社会的規範意識が曖昧になり、良心との葛藤を生じにくくなることが考えられる。以上のことから、社会的規範意識は援助の必要性が明白かどうか、および他者との相互行為の有無により判断内容が変化する可能性を有していることが示唆された。

次に人生観に関する価値意識では、1・2年次とも「身近な人との愛情を大切にすること」や「毎日が楽しいこと」に価値をおく傾向が見られ、自己を中心とした生活を重視している様子、すなわち自己中心性の一端が推察される。また仕事に対する価値意識では「経済的自立」を重視しており、この点は1・2年次ともに経済的には依存状況にあることがこの結果に反映しているものと考えられる。

社会的存在としての価値意識では「親が年老いたら世話をしたり面倒をみたりすることは人として大切である」「今の社会は障害者に対する配慮が少ない」などの質問に対し、1年次、2年次とも80%以上が非常に肯定的であっ

た。一方、「重要なことは皆で話し合って決めるよりリーダーの決断のほうが間違いが少ない」という質問では1年次、2年次ともに90%以上が否定的であった。また「多少自分の考えや生き方と違ってても周りとの和が大切である」という質問では、「かなり思う」「いくらか思う」という回答を合わせると1年次、2年次ともに約78%であった。このことから、社会のあるべき姿や個人の尊重を重視しつつ、対人関係では和を尊重していることが推察される。

道徳的発達段階に関しては山岸の尺度を用いた。コールバーグの定義では第6段階までであるが、日本では必ずしもそのままあてはまらないこと、またコールバーグ自身の定義にも不明瞭な点があることから、山岸は第5段階と第6段階を合わせて第5段階としている<sup>4)</sup>。今回の報告でもコールバーグの第6段階は第5段階と同じ段階として取り扱っている。

そこで例話別の回答状況をみると、安楽死のジレンマについて取り上げた例話2で「奥さんに死ぬための薬を飲ませたほうがよいかどうか」という質問に対し1年次と2年次の間で有意性が認められ、2年次では「わからない」という回答がもっとも多かった。2年次の調査は基礎看護実習の終了直後であったことから、具体的な体験の種類や頻度などは異なるにしても、生命や健康に直接的にかかわったり、医療者と患者側の両方の立場から考えたりする機会をもつという体験が影響したことも考えられる。

道徳的発達段階の分布では例話1・2・3いずれにおいても1年次、2年次ともに第4段階に分布が集中していた。第4段階は「水準2：慣習的水準」で「法と秩序」志向の段階であり、1年次から2年次の間で道徳的発達段階は同じ段階にあることが確認された。

以上より、初学時の学習者において社会的規範意識は援助の必要性が明白かどうか、および他者との相互行為の有無により判断内容が変化する可能性を有していること、およびその道徳的発達段階は「法と秩序」志向の段階にあることを前提として教育方法を精選していく必要性が示唆された。

本研究は平成12~15年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究C（課題番号12672283）の助成を受けた研究の一部である。

#### 文 献

- 1) 尾波達雄：倫理学と道徳教育。東京、以文社、1989、p22-23
- 2) 堀口雅美、大日向輝美、酒井英美、ほか：基礎看護学における看護倫理教育の検討〈本学看護学生の道徳的推論と道徳的発達段階の特徴〉。札幌医科大学保健医療学部紀要4：25-33、2002
- 3) ローレンスコールバーグ：道徳性発達における普遍的なものと相対性、永野重史編。道徳性の発達と教育〈コールバーグ理論の展開〉。東京、新曜社、1985、p22-23



- 4) 山岸明子：青年期における道德判断の発達測定のための質問紙の作成とその検討. 心理学研究51(2)：92-95, 1980
- 5) 片瀬一男, 高橋征仁, 菅原真枝：道德意識の社会心理学. 東京, 北崗出版, 2002, p8